

輝人

かがやきびと

このコーナーでは仕事やプライベートで
“輝く人”を紹介します。
第46回は、ドラッグアカカベ吉田店と
地域連携室の一員として活躍する、
藤井 絵理さんをクローズアップします！



半分半分であることが私の強み。
店舗でも地域連携室でも、
大切にしたいのは、いつもお客様。

「アカカベさんには
伝えないといけないと思って」

アカカベに入社して今年で18年を迎える藤井さん。明るく親しみやすい性格で、お客様から寄せられる信頼も厚い。お店に来るとわざわざ藤井さんを探してくださるお客様や、『店長には内緒だけど、裏でこれ食べておいで!』と白衣のポケットにこっそりお菓子をに入れてくださるお客様。楽しいエピソードは数えきれない中で、何度経験しても慣れないのがお客様とお別れだという。「長年通ってくださるお客様が来店されなくなると、何かあったのかな?と心配になります。以前、常連のお客様のご家族から『いつも親切にしてくれてありがとう、お店に行くのをいつも楽しみにしていました。アカカベさんには伝えないといけないと思って』とお客様が亡くなられた報告をいただいたことがありました。もうお会いできないことがとても寂しかったのと同時に、お客様の生活の中にアカカベがあったことを嬉しく思いました。』

異動して得た、新たな視点

旧・大東店、扇町店を経て今から約6年前に吉田店に異動。この異動を機に、仕事に対する意識が変わった。「吉田店は扇町店と比べると客数は少ないですが、その分スタッフの人数も少ないので任せていただく仕事の幅が広がりました。店長の不在時に店を任せられることも増え、店舗やスタッフの状況を見ながらみなさんの仕事の割り振りをしたり、個人視点から客観的な視点で仕事に取り組む

藤井さんの 座右の銘

「人生で起こること、全てに意味がある」

良いことも悪いことも、自分の身に起こることには全て意味があると思っています。
逆境に感じるようなことでも、乗り越えた先には大きな学びがある。
そう思って前向きに捉えるようにしています！

藤井 絵理
(ふじい えり)

2005年3月入社
学生時代のアルバイトとして大東店に入社。卒業後、契約社員となる。大東店、扇町店を経て、約6年前に吉田店に異動。
2022年8月の社内公募で地域連携室に加入し、現在は店舗と地域連携室の両方で活躍中。

ようになりました。」店全体を見る力が求められる中で、改めて店長の大変さを感じるようになったという藤井さん。尊敬する店長の名前を挙げてくれた。「昨年まで吉田店を率いてくださっていた河田店長（現・商品部バイヤー）からは多くのことを学ばせていただきました。スタッフ一人ひとりの個性を尊重したマネジメント、本部からの指示や、会社に取り組んでいる事をスタッフに周知する力。誰に、どういう情報を伝えるべきかということを的確に判断されていることにとても感銘を受けました。年齢が同じということもあり“私ももっとがんばらなさい!”と刺激を受けましたし、何よりも一緒に店づくりをさせていただく時間が楽しかったです。」

与えられた新しい役割に、 ワクワクしています！

昨年8月の社内公募に手を挙げ、現在は店舗と地域連携室の両方で活躍する藤井さん。「一から勉強させていただくつもりで挑戦しています。名刺交換も初めてで最初の頃は手が震えました(笑)。今は仕事を教えて

いただく時間を割いていただいている状態。新しいポジションを与えていただいたからには、一日でも早く戦力となって会社に貢献したいです。」地域と共に歩む企業として、行政連携の窓口を担う地域連携室の役割は大きい。店舗と地域連携室、半分半分であることは自身の強みだと藤井さんは言う。「例えば当社が取り組むマチイク*の活動においても、普段の生活の中にたくさんのヒントがあると思うので、いつもアンテナを張っておくことが大切だと思っています。お店で接するお客様のニーズが地域のニーズにつながっていることも多いと思うので、お客様との会話も今まで以上に大切にしたい。自分が取り組んだことがお客様の生活を変えるきっかけになるかもしれないと思うと、可能性の大きさを感じますし、ワクワクします!」

*マチイク

大阪・関西万博「TEAM EXPO 2025」プログラムにおいて、当社が共創パートナーとして取り組むテーマ、まちのコミュニケーション育成プログラム「マチイク」。この取り組みを通して、当社は地域コミュニケーションの拠点となり、医療、行政、地域をつなげ、誰もが健康に暮らせるまちづくりに貢献することを目指します。



マチイク詳細ページ